

『愛・地球博』を中心とした自律移動支援プロジェクトの推進について

西部陽右（ITS統括研究部調査役）

『自律移動支援プロジェクト』とは……

自律移動支援プロジェクトは、全ての人が持てる力を発揮し、支えあって構築する「ユニバーサル社会」の実現に向けた取り組みの一環として、社会参画や就労などにあたって必要となる「移動経路」、「交通手段」、「目的地」などの情報について、「いつでも、どこで

も、だれでも」アクセスできる環境を作っていくためのプロジェクトで、平成15年度より、国土交通省政策統括官室が中心となり、『自律移動支援プロジェクト推進委員会』（委員長：坂村健 東京大学大学院教授）のご指導を頂きながら推進している、国家的プロジェクトです。

RF-IDタグや携帯情報端末をはじめとするIT技術を駆使することにより、お年寄りや障害を持つ方々の自由な移動を支援するだけでなく、ビジット・ジャパンキャンペーンの一環として、多言語対応により、訪日外国人の方々へ移動や観光に関する情報を提供するなど、健全者にとっても有用なシステムとしていることが特徴です。

なお、『自律移動支援推進委員会』のホームページ（<http://www.jiritsu-project.jp/>）に、システムのコンセプトなどが紹介されていますので、併せてご参照下さい。

当機構では、おもにシステムの技術面の研究・開発について、平成16年度より、国土交通省国土技術政策総合研究所から受託し、作業を行っています。

■ 視覚障害者向けシステムの実験状況





■ 車椅子に取り付けられた
端末装置

『愛・地球博』と 『自律移動支援プロジェクト』

『愛・地球博（愛知万博）』は、国内外から多数の方々が来場される好機であることから、会場の一部を利用してシステムの実証実験を行うこととなり、平成17年1月13日、愛知万博・長久手会場にて、北側国土交通大臣より記者発表されました。

実証実験の内容は以下の通りです。

1. 瀬戸会場において、RF-IDタグ入り誘導ブロック、太陽電池内蔵タグなどを用い、歩行者支援情報の提供を行う。
2. 「ビジット・ジャパンキャンペーン」の一環として、長久手会場において、無線マーカー、RF-IDタグなどを用い、「多言語（英、仏、スペイン、中国、韓国等）」で会場案内を行う。

このうち、おもに瀬戸会場での実証実験の様子などについて、次項から説明させていただきます。



■ 車椅子向けシステムの実証状況

愛知万博・瀬戸会場での 実証実験について

愛知万博・瀬戸会場での実証実験は、国土交通省中部地方整備局の主導の下、6月7日から9月9日までの期間のうちの42日間にわたり実施され、台風などにより中止になった日を除く39日間に、305名に上る一般モニターの方々にシステムを体験していただき、ご意見を伺うことができました。305名の内訳は、視覚障害者向けシステムが193名（うち、視覚に障害のある方が51名）、車椅子向けシステムが112名（うち、肢体に障害のある方が33名）となっています。

実験では、おもに、情報提供の内容や



■ 瀬戸会場内連絡橋の床下に
設置した RF-ID タグ



■ 坂村委員長（左）と
長谷川委員（右）

■ 自律移動支援プロジェクトの体制

自律移動支援プロジェクト推進委員会（坂村委員長）

場所情報検討専門委員会（委員長:大石プロジェクト顧問）

セキュリティポリシー検討専門委員会（仮称）

サービスWG（座長:坂村委員長）

移動支援項目・方法等サービスに関する検討

技術検討WG（座長:坂村委員長）

位置・場所情報提供の技術に関する検討

神戸プロジェクトチーム（神戸）スーパーアドバイザー:坂村委員長 竹中委員

神戸実証実験WG（座長:近畿地方整備局企画部長）

実証実験内容等神戸実証実験に関する検討

自治体サポーター

自治体名	所 属	役 職	氏 名
北海道	建設部	部 長	野村昌信 氏
青森県	県土整備部	部 長	羽原 伸 氏
岩手県	県土整備部	部 長	橋本義春 氏
宮城県	企画部	部 長	佐々木義昭 氏
千葉県	総合企画部	部 長	小糸正樹 氏
東京都	建設局	企画担当部長	林健一郎 氏
岐阜県	都市整備局	局 長	澤田哲郎 氏
愛知県	建設部	部 長	藤井則義 氏
京都府	商工部	部 長	辻本泰弘 氏
大阪府	土木部	部 長	丸岡耕平 氏
和歌山県	東京事務所	所 長	白藤正和 氏
高知県	土木部	部 長	久保田一水 氏
佐賀県	東京事務所	所 長	村山龍彦 氏
長崎県	東京事務所	所 長	小野道彦 氏
熊本県	土木部	部 長	松原 茂 氏
宮崎県	東京事務所	所 長	黒木郁雄 氏
名古屋市		助 役	塚本孝保 氏
大阪市		助 役	大平光代 氏
北九州市		助 役	宮崎 哲 氏
板橋区		助 役	小島基之 氏
三鷹市		助 役	河村 孝 氏
横須賀市		副 市 長	森田常夫 氏
厚木市		助 役	都高 泉 氏
豊田市		助 役	菊地春海 氏
岐阜市		助 役	高村義晴 氏
金沢市		助 役	須野原雄 氏

本省関係部局連絡会（座長：遠藤政策調整官）

連絡会関係部局

大臣官房、営繕部、総合政策局、情報管理部、国土計画局、都市・地域整備局、河川局、道路局、住宅局、鉄道局、自動車交通局、海事局、港湾局、航空局、北海道局、政策統括官、国政研、国総研、国土地理院

参画サポーター

67社・団体

委員会構成

委員長	坂村 健 氏	（東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授）
プロジェクト顧問	大石久和 氏	（東京大学大学院情報学環COE教授）
	月尾嘉男 氏	（東京大学名誉教授）
委 員	川嶋弘尚 氏	（慶應義塾大学理工学部管理工学科教授）
	後藤省二 氏	（三鷹市市民部調整担当部長）
	竹中ナミ 氏	（社会福祉法人プロップ・ステーション理事長）
	長谷川貞夫 氏	（日本点字図書館評議員）
	長谷川 洋 氏	（日本聴覚障害者コンピュータ協会顧問）
	福島 智 氏	（東京大学先端科学技術研究センターバリアフリー分野助教授）
	井戸敏三 氏	（兵庫県知事）
	矢田立郎 氏	（神戸市長）
	吉岡 淳 氏	（内閣官房都市再生本部事務局参事官）
	室城信之 氏	（警察庁長官官房参事官）
	森 孝 氏	（総務省総合通信基盤局電波部移動通信課新世代移動通信システム推進室長）
	江波戸一敏 氏	（厚生労働省社会・援護局障害保険福祉部社会参加推進室長）
	影山岩夫 氏	（農林水産省総合食料局流通課商業調整官）
	堀口 光 氏	（経済産業省商務情報政策局サービス産業課医療・福祉機器産業室長）
	内村広志 氏	（国土交通省政策統括官）
	望月常好 氏	（国土交通省国土技術政策総合研究所長）
	矢口 彰 氏	（国土交通省国土地理院長）
	藤本貴也 氏	（国土交通省近畿地方整備局長）
	谷口克己 氏	（国土交通省近畿運輸局長）
トータルコーディネーター	清治真人 氏	（国土交通省技監）

（体制は平成17年10月現在）



■ 実験を視察される小泉総理大臣



■ 実験を視察される野田聖子議員（中央）ほか

タイミングなど、情報コンテンツについてのヒアリングが行われ、いただいたご意見を随時実験にフィードバックすることにより、実験の高度化を図りました。

また、愛知万博という国際的イベント会場での実験となったことから、各方面からのご視察も相次ぎました。

6月6日には小泉総理大臣が実証実験の模様をご視察になられたのをはじめ、6月23日には三笠宮殿下もお見えになり、内外からの期待の高さを印象付けました。

なお、7月15日には、当財団の賛助会員の皆様にも実証実験の内容をご視察いただきました。

愛知万博・長久手会場での 実証実験について

瀬戸会場での実証実験と並行して、長久手会場においても、無線マーカーや

RF-IDタグを使用した、観光客向け情報提供の実証実験が行われました。

7月11日には、与党バリアフリー社会形成プロジェクトチーム委員（当時）の野田聖子議員ほかの方々が実験の状況を視察されるなど、内外から高い関心が寄せられました。

『ITS フェスティバル』 への出展

愛知万博に合わせて実施された『ITS EXPO』の一環として、7月12～14日の間、名古屋市中心部の「栄・オアシス 21」で開催された『ITS フェスティバル 2005』において、中部地方整備局ブースの一部として、自律移動支援システムの展示とデモンストレーションを行いました。

会場が、名古屋市随一の繁華街に近いバスターミナルの一角に位置していたこともあり、報道陣をはじめ多数の来場者が詰め掛け、大変な盛況となりました。

『IT CITY MESSE GIFU』 への出展

7月15・16日の両日、岐阜市の岐阜メモリアルセンターで開催された『IT CITY MESSE GIFU』において、主催者でもある岐阜県ブースの一部として、自律移動支援プロジェクトの展示を行いました。

前記『ITS フェスティバル』、および万博瀬戸会場での賛助会員見学会と日程

的に重複していたこともあり、比較的小規模な出展となりましたが、参加者に行政関係者が多かったこともあり、システムの内容について熱心に質問する来場者の姿が多数見受けられました。

地方自治体における プロジェクトの動向について

自律移動支援プロジェクトは、各地方自治体にも高い関心を持って受け止められており、独自に実験を計画している自治体もあります。

たとえば、東京都では、10月13日より上野公園周辺において、実験用の携帯情報端末や、端末を搭載した電動カートを利用して、位置情報や観光情報を取得しながら、上野公園と上野動物園の見どころを巡る実証実験を開始しています(<http://www.tokyo-ubinavi.jp/>)。

このほかにも、いくつかの地域で実験に向けた動きがあり、プロジェクトは全国的な広がりを見せつつあります。

今後のプロジェクトの 進め方について

以上、愛知万博に関連したプロジェクトの動きについて、とりとめもなく紹介してまいりましたが、本稿が皆様に届く頃には、神戸市において、一般モニター実験を含めた本格的な実証実験が展開されている予定です（モニター募集につきましては、前記推進委員会のホームページで情報をご覧ください）。



■ ITS フェスティバルでの展示の様子

神戸市での実証実験では、道路、鉄道、港湾等、あらゆる利用者の移動場面を想定した広範なフィールドを活用し、お年寄り、障害を持つ方、外国の方をはじめ、さまざまな方々にシステムを体験していただきながら、情報コンテンツの内容やシステムの機能について調査・改良を実施するとともに、技術仕様の策定に向け、実フィールドにおけるRF-IDタグや各種マーカー類の性能確認を実施しています。

とくに技術仕様の策定については、できるだけ早い段階で、一部地域でのモデル的なシステム整備が実施できるよう、仕様書の素案について、本年度末の公開を目途に検討・とりまとめを実施している段階です。（にしべ・ようすけ）



■ 『IT CITY MESSE GIFU』の展示ブース